

2019年度 休眠預金活用事業

「無職・非行等少年の職場体験・職場定着事業」 事後評価報告書

【実行団体】 認定特定非営利活動法人
神奈川県就労支援事業者機構



人はみな、
生かされて
生きてゆく。



更生保護ネットワーク

【資金分配団体】 更生保護法人 日本更生保護協会

資金分配団体事業名 | 安全・安心な地域社会づくり支援事業
事業の種類 | 草の根活動支援事業

1. 事業概要 p.1

実行団体概要 / 助成事業概要
助成事業ロジックモデル

2. 事後評価実施概要 p.4

- (1) 実施概要
- (2) 実施体制

3. 事業の実績 p.7

- 3-1 インプット
- 3-2 活動詳細と支援事例
- 3-3 活動とアウトプットの実績
- 3-4 外部との連携の実績

4. アウトカムの分析 p.20

- 4-1 アウトカムの達成度
 - (1) アウトカムの計画と実績
 - (2) アウトカムの達成度についての評価
- 4-2 事業の効率性
- 4-3 成功要因・課題

5. 考察 p.29

事業全体を振り返っての考察
(その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓)

6. 結論 p.31

- 6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
- 6-2 事業実施の妥当性

7. 資料 p.32

1. 事業概要

実行団体

認定特定非営利活動法人 **神奈川県就労支援事業者機構**

団体概要

犯罪者や非行少年が健全な社会の一員として更生するためには、就職の機会を得て経済的に自立することが重要であることにかんがみ、事業者等の立場から犯罪者等の就労を支援し、犯罪者等が再び犯罪や非行に陥ることを防止することにより、犯罪者等の円滑な社会復帰と安全な地域社会の実現を図り、もって個人及び公共の福祉の増進に寄与することを目的とする団体。



創立10周年記念式典の様子

解決を目指す 社会課題

不良行為で補導される少年や問題少年は、自力で立ち直れる力に乏しく、家庭や学校に居場所を見つけられないまま補導等を繰り返しエスカレートさせ、犯罪の加害者や被害者になり、悲惨な結果を招くことがある。卑近な例では、2015年に発生した川崎中1年生殺害事件がある。そうした少年には、保護観察を受けている少年のように保護観察所等からの支援を受けることもなく、少年問題に関わる機関や団体からの支援も届かず、就労経験もなく、また乏しいため、求職活動を一層難しくさせている者もいることから、職場を体験したり、職場に定着できるよう支援していくことで、少年を犯罪から守っていく必要がある。

助成事業

事業名

無職・非行等少年の職場体験・職場定着事業

事業概要

非行等のある少年が、希望する職種での職場体験と、就職後には長く働き続けるよう支援する職場定着の2つの事業を行う。この事業を通じて、少年が居場所を見つけ、また立ち直りの切っ掛けにし、仕事での知識や技術・技能に触れたり、働く人と接するなかで勤労観や職業観、そして社会人としての基本的なマナーの習得を目指していく。

実施期間 | 3年(2020.3~2023.3)
対象地域 | 横浜市と中心とした神奈川県
支援対象 | 非行等の問題行動がある無職少年

事業終了時の 展望 (当初案)

本事業の充実拡大を求め地方自治体への働きかけを進める。特に横浜市においては既に働き掛けを進めていることから、本事業の成果を持ち寄ることで、出来れば事業への財政的な支援が得られることを目指す。なお、本事業を通じて多くの機関・団体とは連携を深めることになることから、この連携を維持・拡大していくためにも、それまでの間は自己資金で運営していく。

中期
アウトカム

横浜市を中心とした神奈川県内在住の非行等の問題行動がある無職少年が減少し、
県内の少年犯罪が減少する

短期
アウトカム

01

(依頼元の拡充)

依頼元の機関・団体が増加・拡充する

02

(依頼元と信頼関係の構築)

依頼元との信頼関係が構築される

03

(職場体験事業)

非行等の問題行動がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージ出来たり、自分がやりたい仕事は何なのか見えてくることで、働くことの大切さや目的を捉えられるようになる

04

(職場定着事業)

非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の生活を送るようになり、仕事を通じて達成感や自己肯定感を得たり、周囲に相談できる人や尊敬できる人がいる状態になる

05

(協力雇用主の拡充)

少年を支援する協力雇用主が増える

アウトプット

0101

依頼元の拡大拡充に向け、関係機関・団体と接触を続けるとともに広報活動も積極的に行う(2021.6追加)

0201

依頼元との接触する頻度が増加する (2021.10追加)

0301

横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場体験支援を受ける

0401

横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場定着支援を受ける

0501

本事業の必要性に理解を示す協力雇用主が増える (2021.10追加)

活動

依頼元になりそうな司法・警察・福祉機関に接触し、本事業の活用について繰り返し働き掛けを行う

依頼元との接触回数目標を定め、支援の実施結果を報告する。依頼元と協力雇用主を招集し意見交換会を実施する

非行などの問題を抱えた少年に、一事業者2日間で、1日3時間の職場体験を支援する

非行などの問題を抱えた少年に、6か月間に亘って職場定着を支援する

協力雇用主の中から理解を示している事業所をリストアップし登録する。受入事業所となったら、依頼元との合同協議会に参加を呼び掛け、同じく理解がありそうな事業所を紹介してもらう

2. 事後評価 実施概要

(1) 実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

- ・本事業の依頼元となる機関・団体の数が増えることは、多くの少年に立ち直りの切っ掛けを与えたことになること。
- ・本事業では、依頼元との信頼関係の構築が欠かせないこと。
- ・本事業に参加した少年からアンケート等に答えてもらうことで、少年の変化や成長の跡を見ることができること。
- ・本事業を受入れてくれる事業所の数が多いことは、事業の成果と充実・拡大に繋がること。

② どんな調査で測定したのか

短期 アウトカム 01 の評価	01	(依頼元の拡充) 依頼元の機関・団体が増加・拡充する
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 参加申込の受理簿で確認 2020年4月～2023年2月 受理簿に記載されている依頼元の数 単純集計
短期 アウトカム 02 の評価	02	(依頼元との信頼関係の構築) 依頼元との信頼関係が構築される
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 参加申込の受理簿で確認 2020年4月～2023年2月 受理簿に記載された依頼元のうち2件以上の参加申込があったもの 単純集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 依頼元へのインタビュー又はアンケート調査 支援終了時 全ての依頼元 単純集計

② どんな調査で測定したのか

短期 アウトカム 03の評価	03	(職場体験事業) 非行等の問題がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージ出来たり、自分がやりたい仕事は何なのか見えてくることで、働くことの大切さや目的を捉えることができる。
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 【 定性調査 】 アンケート調査等 支援終了時 依頼元・職場体験支援を受けた少年 単純集計・依頼元への聞き取り
短期 アウトカム 03の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 【 定性調査 】 アンケート調査又はインタビュー 支援終了時 依頼元・職場体験支援を受けた少年 単純集計・依頼元への聞き取り
	04	(職場定着事業) 非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の生活を送るようになり、仕事を通じて達成感や自己肯定感を得たり、周囲に相談できる人や尊敬できる人がいる。
短期 アウトカム 04の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 アンケート調査又はインタビュー 支援の終了時 支援対象の少年 単純集計
	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 【 定性調査 】 アンケート調査又はインタビュー (ループリック) 支援の終了時 支援対象の少年 単純集計・雇用主、対象少年への聞き取り
短期 アウトカム 04の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 【 定性調査 】 アンケート調査又はインタビュー 支援の終了時 支援対象の少年 単純集計・雇用主、対象少年への聞き取り
	05	(協力雇用主の拡充) 少年を支援する協力雇用主が増える
短期 アウトカム 05の評価	(1) 調査方法 (2) 調査実施時期 (3) 調査対象者 (4) 分析方法	【 定量調査 】 本事業への協力を示す協力雇用主の登録事業者名簿 2020年4月～2023年3月 登録事業者名簿に登録されている雇用主 単純集計

③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

- ・本事業を開始する前年から、少年問題に関わる多くの機関・団体と接触し、事業への期待度を感じていたことから、依頼元が増える調査結果には納得できるところだが、依頼元の規模を見ると、弁護士や児童福祉団体のような小さな組織は広がりを見せているが、大きな組織や公的な機関からは、思っていたほどの数値にはなっていない。この辺は本事業の広報がコロナ禍もあって十分に周知できなかったこと、大きな組織に対してはきめ細かな対応が出来なかったこと、公的な機関では実績もなかったことから信用・信頼を得るまでに至っていないこと等が要因として考えられる。
- ・依頼元への「今後も機会があれば依頼をしたい」という調査では、依頼元となった全ての機関・団体から回答を得ており、また2件以上の依頼も依頼元数の半数あり、これからも本事業への期待度の高まりと言える。
- ・本事業を受け入れる事業主も予定していた数を超えて確保できている。本事業では、少年を受け入れてくれる事業主をどれだけ確保出来るのか、また、その事業主が少年の健全育成と非行防止をどれだけ考えてくれるのかが、事業の成否に繋がることと思っていたこともあり、本事業に協力する多くの事業主を確保できたことは大きな成果であり、本事業の更なる発展に期待がもてる。

(2) 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
外部	データ分析・評価全般のアドバイス	藤野京子	早稲田大学文学学術院教授
内部	インタビューの実施	山内 謙	神奈川県就労支援事業者機構就労支援員
内部	文献調査・報告書の作成	竹内政昭	神奈川県就労支援事業者機構事務局長

3. 事業の実績

3-1 インプット（主要なものを記載）

項目	内容・金額	
(1) 人材 (主に活動していたメンバーの人数や役割等)	内部：内部：合計6人（担当者5人、管理1人） 外部：合計1人（専門家1人）	
(2) 資機材（主要なもの）	テレワーク用パソコン（3台）	
(3) 経費実績 助成金の合計		
① 契約当初の計画金額	合計 11,960,874 円	事業費：11,430,874円（内訳 直接事業費：9,728,988円 / 管理的経費：1,701,886円） 評価関連経費：530,000円 コロナ対応緊急支援追加額：0円（内訳 直接事業費：0円 / 管理的経費：0円）
② 実際に投入した金額と種類	合計 13,500,874 円	事業費：11,430,874 円（内訳 直接事業費：9,728,988円 / 管理的経費：1,701,886円） 評価関連経費：530,000円 コロナ対応緊急支援追加額：1,540,000 円（内訳 直接事業費：1,450,000 円 / 管理的経 90,000円）
(4) 自己資金		
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計 1,052,000 円	
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計 1,052,000 円	
③ 資金調達で工夫した点		

事業を発想したきっかけ

刑務所出所者等の就労支援を実施しているなかで、協力雇用主の存在が大きく、その協力なくしては事業を成し得ないことを知るが、その中には少年の雇用に大きな力を発揮する事業所がいくつか見えたことから、非行等の少年には、出来るだけ、こうした事業所を活用することを考えていた。

また、保護観察中の少年は、傍に保護観察官や保護司がいて相談等ができるがそこまで非行が進んでない少年は、そうした支援も受けられず、就労することなく無為な生活を続けていることから、それらの少年に居場所にもなる職場体験・職場定着支援を行うことで、少年を犯罪の加害者にも被害者にもさせない事業を考えた。

職場体験事業 | 働くという社会体験によって生まれる変化

中学卒業間際の少年(15歳)の事例。少年は、同級生とトラブルを起こし、被害を受けた少年の保護者が、少年を登校させないよう学校に要求。学校は、少年に出席停止の措置をとることにしたため、少年に関わっていた警察官は少年の居場所を考え、本事業への参加を促し、参加することになったもの。そして、同警察官が学校へ働きかけこの職場体験は校外学習の授業として認められた。

職場体験の初日の感想は「大変そうだったけど、社長さんとの話など一つ一つ楽しかった」、2日目の感想は「物の名前にもいろんな種類があって覚えるのにすごい時間がかかりそうだなと思った」である。仕事は安易な気持ちで出来るものではないとの自覚も高まり、真剣に体験に取り組もうとする姿勢が伺えた。受入事業所からは、「積極的に質問などもでき、将来有望株になるのでは。今後に期待したい」との評価も得た。

卒業後の就労先として、体験先でも受け入れを表明したが、保護者は学校の口利きでハローワークから住込先を3社紹介され、紹介先に母親とともに見学に赴くが、少年は体験先での就労を希望し、結果、4月からは同社で住込就労することとなった。

少年は、現在も体験先での就労が続いている。職場体験事業が少年の中学卒業後の進路決定にも繋がった事例である。

本事業を勧める前から良好な関係を保っていた警察官からの勧めであったこと、保護者など周りの人もこの事業への参加を後押ししたことなど様々な要因が絡んで成功に至った様子である。学校生活では疎んじられてしまった少年であるが、職場で有望株と評価され、自身の居場所と出番をつかみ取ろうとしている段階にある。(※このほかの4事例は別添参照)

職場定着事業 | 少年と雇用主に対する後方支援

自立援助ホームの退寮間際の少年(19歳)の事例。同ホームに滞在できる年齢制限が迫っている中での就労依頼であった。少年の希望は経営が安定している製造業。やや消極的な感じを受けたが、柔和な様子でコツコツ仕事をやれるタイプと判断し、製造業での仕事を紹介することにした。

就労から1~2か月目。少年から元気に働いているとの報告もあり、事業所も定着に向かって安心して見ているとのこと。しかし、少年が通勤費の負担が大きいことを事業所に上手く言い出せず、尻込みしている様子もあったので、費用明細を明示しながら、事業所に相談するよう伝え、今後も同じようなケースが起きた場合は自身で解決するよう指導をした。

就労から3か月目。少年から、通勤費の問題は事業所の理解が得られ、全額を支給して貰えるようになったとのこと。また、事業所からは、毎日確りと仕事をしているとのコメントもあったが、少年は間もなく試用期間が終え、その後は正社員として働くことになるので、今まで以上に期待し、厳しく仕事をしてもらうことになり、その旨を少年に伝えたとのこと。

そのため、同ホーム責任者を交えた本人との面談を予定したが、年末年始の時期とも重なり、責任者との日程が合わず3週間後の日程となった。

就労から4か月目。突然、少年が退職届を提出。そのあとに少年と責任者との面談になったが、既に少年の退職意思は固く、再考することもなかった。体力不足で仕事に馴れても続けていけそうもないというのが退職理由だという。

退職から2か月後。少年は援助ホームを退所しアパート生活を始めたという。仕事は、以前アルバイト経験のあるリネンサービスの仕事で病院のシーツやタオル交換等を行っているとのこと。定着支援の事業所より、給与は大幅に下がったが、仕事は楽になり休日も多く、休みも計画的にとれているとのこと。

職場体験参加者からのアンケート

職場体験アンケート

(令和 〇〇年 〇〇月 〇〇日)

職場体験先の会社名
株式会社 〇〇〇〇

この事業所を職場体験先として選んだ理由は?
〇〇〇〇さんに雇われていただきました。

【職場体験の振り返り】

1 職場体験を振り返り、各項目について該当する数字に○印をつけてください。
(4/できた 3/まあ、できたと思う 2/できなかった 1/分からない)

1. 体験先では、あいさつをしっかりとすることができましたか?	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1
2. 体験先では、社員の皆さんと、お話ができましたか?	4 ・ (3) ・ 2 ・ 1
3. 仕事の大変さや厳しさを感じることができましたか?	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1
4. 仕事の喜びや楽しさを感じることができましたか?	4 ・ (3) ・ 2 ・ 1
5. 仕事には勉強も必要と感じることができましたか?	4 ・ (4) ・ 2 ・ 1
6. 実際の知識や技術を学ぶことができましたか?	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1
7. 働くことの大切さを感じることができましたか?	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1
8. 将来について考えることができましたか?	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1
9. 自分自身の意外な一面を知ることができましたか?	4 ・ 3 ・ 2 ・ (1)

2 職場体験をして「良かったこと」「うれしかったこと」「大変だったこと」「自信がったこと」は、どんなことですか?
未経験の自分に、皆こん優しくしてくれて、やりやすかったです。
接着剤を混ぜるのと、電車移動がスムーズだった...笑
2日間ありがとうございました。

※ 職場体験先からのコメント
石臼内では、その製造を体験していただきました。初めて行う作業で、不懂ながらも関係が、大きなミスなく最後までこなして貰いました。「ここはもう少し削った方がいいですか?」など、自分で気付いた疑問を伝えることができ、短い時間ながら、ものごとを改善しようとする意識がある事はとても良い点だと思いました。これが今後の意欲でがんばってください。(株) 〇〇〇〇

職場定着参加者のループリック

職場定着支援のループリック

整理番号: 15

記入日: 支援開始のとき・支援終了のとき	評価基準	
	A: 満足できる	B: 概ね満足できる
到達目標(着眼点)	月1回程度、遅刻や欠勤がある	C: 努力を要する 毎週1回程度、遅刻や欠勤がある
遅刻や欠勤をしない	近3か月間は遅刻や欠勤がない	実際に遅刻を頼むことがある
仕事中心の生活を送る	必ず遅刻を入れていない	月1回は、夜遊び・外泊がある
仕事に差し障りがある夜遊び・外泊をしない	夜10時前には帰宅している	失敗やミスを隠蔽したり言い訳する
失敗やミスを繰り返さない	失敗やミスを繰り返さないよう気を付けている	上司や先輩の話を聞き流らすことがある
仕事に対する姿勢が積極的と置かれる	分からない点は自分でも調べ確認する	会社指示の講習会には参加する
必要な資格を得たり講習会にも参加する	資格や講習修了証を取得できた	仕事に今一つ気乗りがしない
達成感や自己肯定感を抱いていく	顧客や同業者から褒められたことがある	達成目標になかなか届かない
仕事に達成感を得る	達成目標のいくつかはクリアした	役立っているのかよく分からない
仕事で社会に役立っていると感じている	関係機関や団体からの顕彰を受けた	誰に相談すれば良いのか分からない
相談や尊敬できる人がいる	相談できる上司や先輩が複数いる	挨拶されれば、挨拶を交わす
職場定着事業	きちらと挨拶ができる(社会人としてのマナー)	時間を守れないことがある
	約束の時間は守る	

依頼元や協力雇用主との連携強化 |

依頼元の間口を広げ、雇用主との関係を深める

①家庭裁判所との連歴

これまでに4回意見交換を実施。家裁側の反応は高く、事業推進に期待が寄せられていた。家裁からは次席、主任のほか若手調査官が毎回複数名出席しており、特に定着支援に関心が寄せられ、体験先を補導委託先としての活用も検討されていた。人事異動とコロナ禍もあって、組織としての連携には至らなかったが、裁判官も含む少年部会において、本事業での申込手続の実施要領作りを進め、本格的な実施は2021年度からという話にまではなっていた。現在は、本庁及び川崎支部の調査官とでケースを通じて関係作りが出来ている。

②弁護士会との連携

弁護士会のうち「子どもの権利を守る委員会」とは3回会合を実施している。会合に出席した弁護士はもとより、欠席した弁護士、そして、依頼元になった弁護士と同じ弁護士事務所に所属する弁護士からも依頼を受けている。

③警察署との連携

警察本部少年課とは2回会議を実施。対応した警察官からは「警察も同様なことを検討していたが、人員と財源の不足で実施できないでいた。是非、活用したい」との回答があり、県内の各警察署へ本部長名で活用を促す文書の発出したり、横浜市内で少年事件の多い警察署5か所を抽出し、同署少年係長との接触の便宜も図っていただいた。

④児童福祉関係との連携

・児童自立支援施設

県内3か所あるが、全て訪問し協力要請することが出来ている。同施設では、卒園を控えたケースでの活用の申出を受けている。

・児童相談所

神奈川県と川崎市の児相では、事業説明する機会が得られたが、横浜市の児相では接触を嫌う言動を見せるため接触していない。

⑤保護観察所及び保護司との連携

保護観察所とは平素から連携に努めていることから依頼元としては何の問題もなく、保護司にも機関誌で要請していることで連携が図れている。実際、本事業には保護司からの申し出を受けることが多い。

⑥神奈川県との連携

県が主導する、国、県、市町村及び民間団体に構成する連絡会議「子ども・若者支援連絡会議」が県内を5ブロックに分けて開催されることから、これに出席し広報活動を展開している。

⑦横浜市との連携

- ・同市こども青少年局からは、市内の「自立援助ホーム」のリストをもらい同施設への働き掛けを進めているが、同局も会合等で事業周知の協力を得ている。
- ・同市経済局からは、「横浜市就労支援事業連絡会」への出席が認められ、事業説明する機会を得ている。

⑧協力雇用主との連携

協力雇用主に対し事業説明をし、協力してくれる事業所については、受け入れ可能な対象者の条件(例えば、薬物使用歴がある者は受け入れないなど)もヒアリングし、具体的な対象者が現れる前に準備は進めた。推薦機関や対象者の希望する業種の事業所がない場合は新たな事業所を探すことにした。

ロジックモデル

【無職・非行等少年の職場体験・職場定着事業】

中期
アウトカム

横浜市を中心とした神奈川県内在住の非行等の問題行動がある無職少年が減少し、
県内の少年犯罪が減少する

短期
アウトカム

01

(依頼元の拡充)

依頼元の機関・団体が
増加・拡充する

02

(依頼元と信頼関係の構築)

依頼元との信頼関係が
構築される

03

(職場体験事業)

非行等の問題行動がある
無職少年が、職場体験支
援を受けることにより、
働くということが具体的
にイメージ出来たり、自
分がやりたい仕事は何な
のか見えてくることで、
働くことの大切さや目的
を捉えられるようになる

04

(職場定着事業)

非行等の問題行動がある
無職少年が、職場定着支
援を受けることにより、
仕事中心の生活を送るよ
うになり、仕事を通じて
達成感や自己肯定感を得
たり、周囲に相談できる
人や尊敬できる人がいる
状態になる

05

(協力雇用主の拡充)

少年を支援する協力雇用
主が増える

アウトプット

0101

依頼元の拡大拡充に向け、
関係機関・団体と接触を続
けるとともに広報活動も積
極的に行う(2021.6追加)

0201

依頼元との接触する頻度が
増加する (2021.10追加)

0301

横浜市を中心とした非行等
の問題行動がある少年が、
職場体験支援を受ける

0401

横浜市を中心とした非行等
の問題行動がある少年が、
職場定着支援を受ける

0501

本事業の必要性に理解を示
す協力雇用主が増える
(2021.10追加)

活動

依頼元になりそうな司
法・警察・福祉機関に接
触し、本事業の活用につ
いて繰り返し働き掛けを
行う

依頼元との接触回数を目
標を定め、支援の実施結
果を報告する。依頼元と
協力雇用主を招集し意見
交換会を実施する

非行などの問題を抱えた
少年に、一事業者2日間で、
1日3時間の職場体験を支
援する

非行などの問題を抱えた
少年に、6か月間に亘っ
て職場定着を支援する

協力雇用主の中から理解
を示している事業所をリス
トアップし登録する。受
入事業所となったら、
依頼元との合同協議会に
参加を呼び掛け、同じく
理解がありそうな事業所
を紹介してもらう

3-3 活動とアウトプットの実績

アウトプット 0101	アウトプット 依頼元の拡大拡充に向け、関係機関・団体と接触を続けるとともに広報活動も積極的に行う。(2021.6追加) 目標達成時期 2023年2月		
主な活動（概要） 依頼元になりそうな司法・警察・福祉機関に接触し、本事業の活用について繰り返し働き掛けを行う。			
指標	初期値	目標値	実績値
①依頼元として協力が得られそうな団体としてピックアップした数 （司法機関のほか、行政・警察・児童福祉等にも展開）	0団体	29団体	① 60団体 【目標達成】 家庭裁判所 保護観察所 警察署 弁護士（事務所） 児童相談所 児童自立支援施設 自立援助ホーム等
②協力が得られそうな支援要請機関・団体の訪問数 （直接的な働き掛けの回数）	0団体	14団体	②26団体（横浜市内を中心に訪問） 【目標達成】 家庭裁判所 保護観察所 警察本部 警察署(5) 弁護士会 児童相談所(4) 児童自立支援施設 (3) 自立援助ホーム(11)
③保護観察所と情報交換会の開催回数	0回	2回	③ 0回 【目標未達成】 コロナ禍で、保護観察所から会議は控えるよう指導があり、開催できなかったが、ケースを通じて情報交換は実施しており、保護観察所が監修する保護司向けの機関紙には事業の広報記事を記載している。
④横浜市保護司会連合会 （18地区保護司会の取りまとめ団体）への協力要請の回数	0回	2回	④ 2回 【目標達成】 コロナ禍で、全員を集めての要請は出来なかったが、1回は連合会役員には対面で、1回は文書で要請した。
⑤ホームページの更新回数	0回	2回	⑤ 2回 【目標達成】
⑥神奈川新聞社への協力要請回数	0回	2回	⑥ 1回 【目標未達成】 なお、読売新聞と神奈川県社会福祉協議会の月刊誌には事業の取材記事がある。

アウトプット 0201	アウトプット 依頼元との接触する頻度が増加する (2021.10追加) 目標達成時期 2023年2月		
	主な活動 (概要) 依頼元との接触回数の目標を定め、支援の実施結果を報告する。依頼元と協力雇用主を招集し意見交換会を実施する。		
指標	初期値	目標値	実績値
①支援ケースごとの依頼元との接触回数 (体験事業)	特に定めていない	ケースごとに3回以上 (依頼時、開始前、終了後)	①【 目標達成 】 実施したケースは、全てにおいて3回以上接触
②支援ケースごとの依頼元との接触回数 (定着事業)	特に定めていない	ケースごとに3回+定着支援 月数以上 (依頼時、開始前、 支援中は少なくとも月1回、 終了時)	②【 目標未達成 】 実施したケースは、実施期間中は全てにおいて目標値 に定めた回数以上接触
③依頼元と (ケースのやりとり以外に) 接触した 回数・内容	特に定めていない	各依頼元と、年1回は電話・ 対面等で接触する	③【 目標達成 】 依頼を受けた全てのケースで接触

アウトプット 0301	アウトプット 横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場体験支援を受ける。 目標達成時期 2023年2月		
	主な活動（概要） 非行などの問題を抱えた少年に、一事業者2日間で、1日3時間の職場体験を支援する。		
指標	初期値	目標値	実績値
①職場体験支援マッチングを実施した少年数	0人	39人	①20人 【目標未達成】 うち3件は、体験先とのマッチングまで進めたが、コロナ禍で、体験実施を延期すると、本人の意欲等も失せたようで、実施に至っていない。また2件は未実施。 依頼元は、家庭裁判所、保護観察所、警察署、福祉事務所 児童自立支援施設、保護司、弁護士、自立援助ホーム。
②職場体験支援を受けた少年数	0人	25人	②16人 【目標未達成】 うち2件は、体験を2か所で実施

アウトプット 0401	アウトプット 横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場定着支援を受ける。 目標達成時期 2023年2月		
	主な活動（概要） 非行などの問題を抱えた少年に、6か月間に亘って職場定着を支援する。		
指標	初期値	目標値	実績値
①職場定着支援のマッチングを実施した少年数	0人	25	① 8人 【目標未達成】 うち1件は父親から支援辞退の申し出があり、2件は審判で少年院送致の決定があり、実施には至ってない。 依頼元別では、弁護士6件、自立援助ホームが2件
②職場定着支援を受けた少年の数	0人	19人	② 6人 【目標未達成】

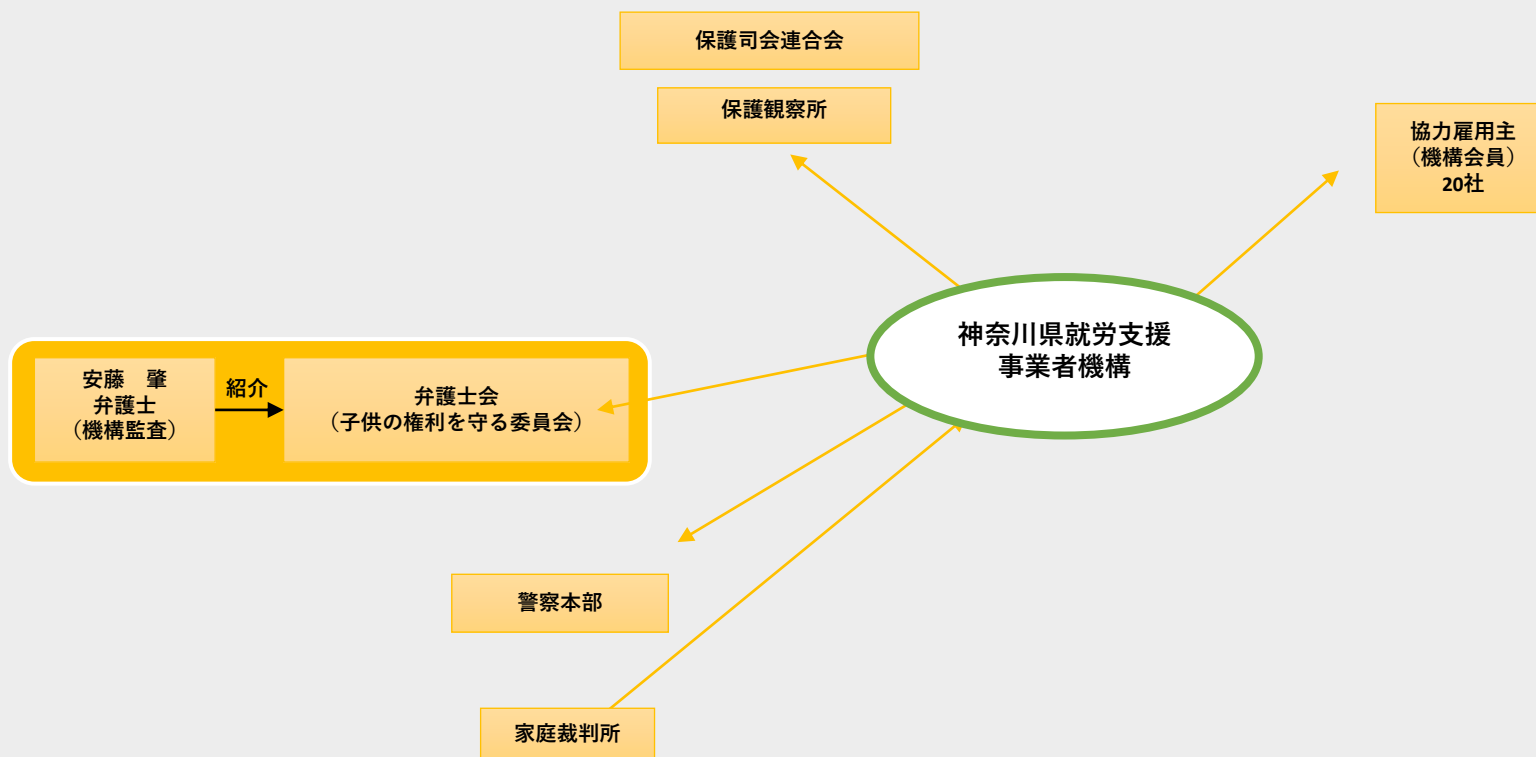
アウトプット 0501	アウトプット 本事業の必要性に理解を示す協力雇用主が増える(2021.10追加) 目標達成時期 2023年2月		
	主な活動(概要) 協力雇用主の中から理解を示している事業所をリストアップし登録する。 受入事業所となったら、依頼元との合同協議会に参加を呼び掛け、同じく理解がありそうな事業所を紹介してもらう。		
指標	初期値	目標値	実績値
①既存の協力雇用主のうち、少年の健全育成に理解を示した事業所数	0社	40社	①45社 【目標達成】
②事業所と依頼元との合同意見交換会実施回数	0社	1回	②2回 【目標達成】 2021年11月、2023年1月に実施
③横浜市以外のみならず、神奈川県内全域で、本事業に協力する雇用主の数	0社	10社	③24社 【目標達成】

3-4 外部との連携の実績

【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】

■ エコマップ制作概要

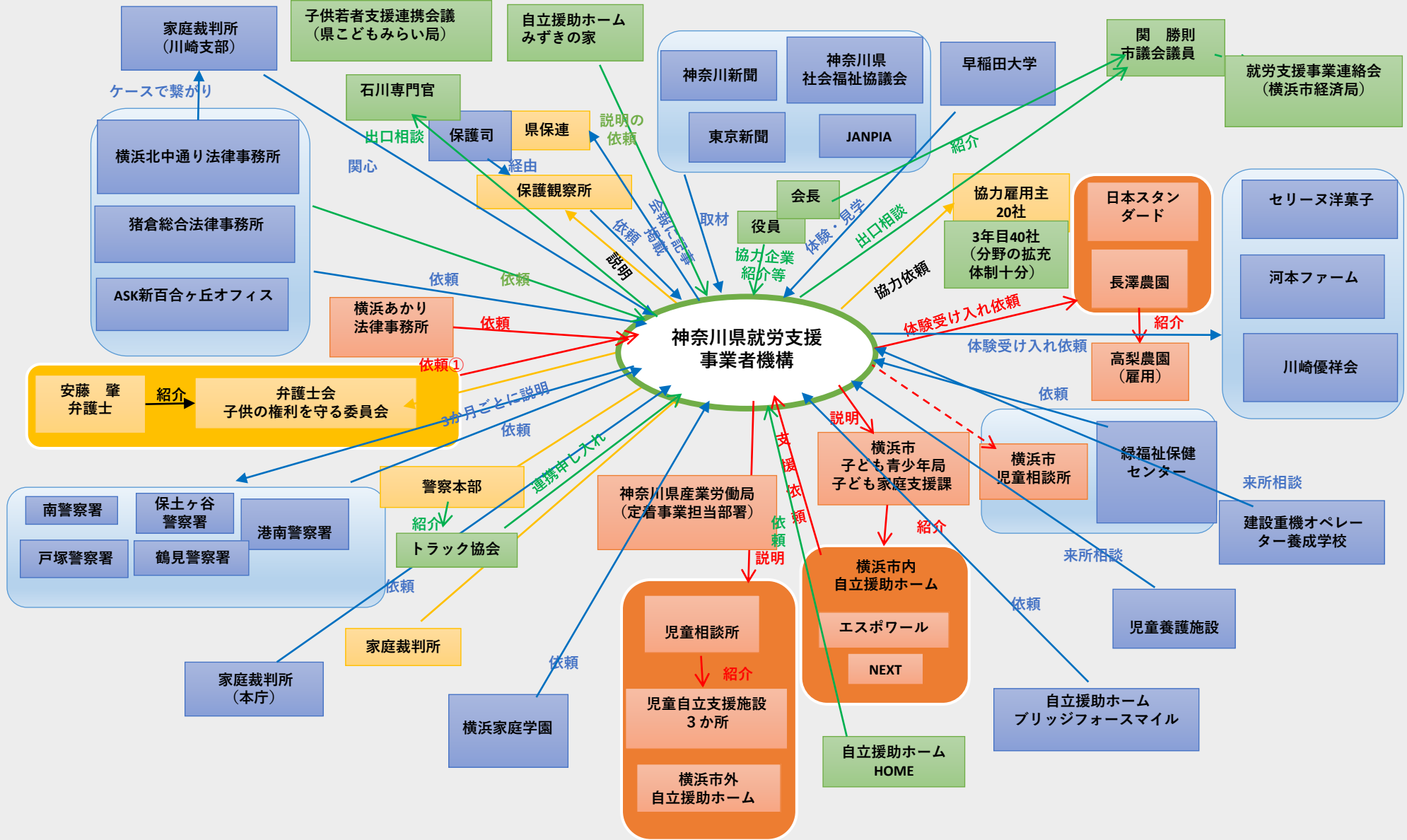
色分け：助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



3-4 外部との連携の実績
【事業3年目のエコマップ：2022年10月時点】

■ エコマップ制作概要

色分け：助成事業開始前 黄色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



外部との連携の実績

■1年目

- ・依頼元となる機関・団体へ働き掛けを進めようとしたが、コロナ禍から接触を拒む機関等もあり、事業を進めることができないでいた。
- ・同様に、受入事業所の開拓も思うように捗らなかったが、事業開始前から準備等を進めており、一定数の事業所を確保していたため、申出があれば何時でも対応出来る体制にはなっていた。
- ・支援依頼も低調のため、信頼関係がある保護観察所のケースについて受入れることとすると、多くのケースの申し出を受けることになった。

■2年目

- ・依頼元となる機関等への働き掛けも、少年問題を抱える児童福祉機関へ範囲を広げていくと、思いのほか好感が得られ、以降は関係に広がりを見せてきた。児童福祉機関については、横浜市子ども青少年局の協力を得たが、提供された施設リストに個々に接触すると、好意的な反応を見せていた。
- ・その後は、依頼元になりそうな機関・団体を訪問してきた弁護士、児童自立支援施設、家庭裁判所、警察等からの支援依頼が続くようになった。

■3年目

- ・2件目の依頼を受ける機関・団体も出てきた。
- ・体験先では、登録していた事業主の中に希望する職種がなかったところ、機構役員から懇意の業界を紹介され、体験先を確保することも出来ている。
- ・広報チラシも相当数配布したが、福祉施設からはチラシが回覧されたことを覚えていて、その記憶から問い合わせがあり体験が実現している。

■まとめ

外部との連携では、当機構がこれまで接触したことのない機関・団体ばかりである。信頼や信用もない中での接触であったことから、連携や協力を得るまでには時間を要したが、実際のケースを通じて関係が深まった。非行問題を考える多くの機関団体との連携の輪が広がったことは大きな成果といえる。2023年1月に開催した意見交換会では、依頼元から事業の継続を求める声が届いている。

4. アウトカムの分析

ロジックモデル

【無職・非行等少年の職場体験・職場定着事業】

中期 アウトカム

横浜市を中心とした神奈川県内在住の非行等の問題行動がある無職少年が減少し、
県内の少年犯罪が減少する

短期 アウトカム

01

(依頼元の拡充)

依頼元の機関・団体が増加・拡充する

02

(依頼元と信頼関係の構築)

依頼元との信頼関係が構築される

03

(職場体験事業)
非行等の問題行動がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージ出来たり、自分がやりたい仕事は何なのか見えてくることで、働くことの大切さや目的を捉えられるようになる

04

(職場定着事業)
非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の生活を送るようになり、仕事を通じて達成感や自己肯定感を得たり、周囲に相談できる人や尊敬できる人がいる状態になる

05

(協力雇用主の拡充)

少年を支援する協力雇用主が増える

アウトプット

0101

依頼元の拡大拡充に向け、関係機関・団体と接触を続けるとともに広報活動も積極的に行う(2021.6追加)

0201

依頼元との接触する頻度が増加する (2021.10追加)

0301

横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場体験支援を受ける

0401

横浜市を中心とした非行等の問題行動がある少年が、職場定着支援を受ける

0501

本事業の必要性に理解を示す協力雇用主が増える (2021.10追加)

活動

依頼元になりそうな司法・警察・福祉機関に接触し、本事業の活用について繰り返し働き掛けを行う

依頼元との接触回数目標を定め、支援の実施結果を報告する。依頼元と協力雇用主を招集し意見交換会を実施する

非行などの問題を抱えた少年に、一事業者2日間で、1日3時間の職場体験を支援する

非行などの問題を抱えた少年に、6か月間に亘って職場定着を支援する

協力雇用主の中から理解を示している事業所をリストアップし登録する。受入事業所となったら、依頼元との合同協議会に参加を呼び掛け、同じく理解がありそうな事業所を紹介してもらう

4-1 アウトカムの達成度

(1) アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 01		(依頼元の拡充) 依頼元の機関・団体が増加・拡充する 目標達成時期 2022年10月末		
指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況 (実績)	
依頼元の数が増える	4機関・団体	2022年中に8機関・団体から参加申込を受理する	<p>実績は14機関等 【目標達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年中の依頼元の機関等は、エスポワール、NEXT、横浜あかり法律事務所、横浜保護観察所の4機関等だったことから、倍増する(8件以上)ことを目標とした。 ・新たに加わった機関等は、横浜家庭裁判所、横浜北仲通り法律事務所、杉原・須々木法律事務所、前島総合法律事務所、ASK百合丘オフィス、横浜家庭学園、港南警察署、緑福祉保険センター(横浜北部児童相談所)、ブリッフォースマイル、保護司の11機関。 	

短期アウトカム
02

(依頼元との信頼関係の構築) 依頼元との信頼関係が構築される
目標達成時期 | 2023年2月

指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況 (実績)
① 2 件目の依頼が寄せられた依頼元の数	0	依頼があった中の 5 割	①100% (依頼元の14機関等のうち2件以上の依頼があった団体は7機関) 【目標達成】 ・内訳は、保護観察所、港南警察署、横浜北仲通り法律事務所、杉原・須々木法律事務所、エスポアール、ブリッジフォースマイル、緑福祉保健センター
② 支援終了後に依頼元から「今後も機会があれば依頼をしたい」との回答が得られた件数	0	依頼があった中の 8 割	②100% (依頼元の14機関等) 【目標達成】 ・回答が得られたのは14機関・団体の全部 ・これまで体験や定着終了時には、依頼元に体験中の報告をし、全ての依頼元から「機会があったらお願いします」との回答を得ている。また、依頼は受けたものの実施には至らなかった機関からも同様の回答を得ている。

短期アウトカム
03

(職場体験事業) 非行等の問題がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージ出来たり、自分がやりたい仕事は何なのか見えてくることで、働くことの大切さや目的を捉えることができる。
目標達成時期 | 2023年1月末 (目標を分析する期間を2カ月とみる。)

指標	初期値 / 初期状態	目標値 / 目標状態	アウトカム発現状況 (実績)
①職場体験支援を受けた少年のうち「仕事をしたい」と思えるようになった少年の割合	0	予定数21件のうち 16件 (76%)	①93% 【目標達成 (割合で判断)】 支援対象の少年にアンケート調査するとともに、時機を見て、少年の近況について依頼元に確認した。 体験を受けた少年16名のうち、「仕事をしたいと思えるようになった少年」は15件。 ※体験先又は同業種先で就労に至ったものは9件、他業種で就労は1件、専門学校へ入学は2件、求職中は3件。
②職場体験支援を受けた少年のうち「体験先の仕事が自分に向いているような気がするので、このまま仕事を続ける」と言う少年の割合	0	予定数21件のうち 14件 (67%)	②50% 【目標割合は未達成】 体験を受けた少年16名のうち、体験先で就労に至ったものは8件

短期アウトカム
04

(職場定着事業) 非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の生活を送るようになり、仕事を通じて達成感や自己肯定感を得たり、周囲に相談できる人や尊敬できる人がいる。
目標達成時期 | 2023年1月末 (目標を分析する期間を2カ月とみる。)

指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況 (実績)
①支援期間中 (特に定めがない場合は6か月) も就労が続いたり、この間に転職しても転職先での就労が続いている少年の割合	0	予定数20件 のうち12件 (60%)	①75% 【目標未達成】 定着支援の実施件数は6件。うち、支援が終了したのは4件で、1件は支援先でそのまま就労、2件は支援先を離職しているが転職先での就労が続き、1件は再非行で身柄拘束中。
②仕事の成果が認められたり、自分の成長を感じることが出来るようになった少年の割合	0	予定数20件 のうち12件 (60%)	② (調査対象2件の支援開始時と終了時のループリック) 「達成感や自己肯定感を得ていく」項目では「満足できる」レベルでの項目は何もないが、「概ね満足できる」は多く見られる。また「努力を要する」は、開始時からレベルを下げるものがあるが、これは同一人の回答であり、「仕事に今一つ気乗りがしない」等と評価したあと、数日後に就労先を辞めている。
③仕事を通じて、相談できる人や尊敬できる人を複数名挙げる事が出来る少年の割合	0	予定数20件 のうち12件	③ (調査対象2件の支援開始時と終了時のループリック) 「相談や尊敬できる人がいる」の項目では、1件は「相談できる人が一人いる」とレベルを上げ、他の1件では「相談できる上司や先輩がいる」レベルを下げています。 (注) ループリックは、就労開始時と6か月の経過時に測定することにしたが、6か月経過しないうちに離職したり、家裁審判の影響もあり、思うような測定が出来ていない。

短期アウトカム 05	(協力雇用主の拡充) 少年を支援する協力雇用主が増える。 目標達成時期 2023年2月		
指標	初期値 ／ 初期状態	目標値 ／ 目標状態	アウトカム発現状況 (実績)
本事業への協力を示す協力雇用主の数が増える	25社	40社	45社 【目標達成】 この中には、体験事業を知り、事業主から協力の申出を受けたものや、参加者の希望を応えるため、関係者の協力を得て確保した事業所もある。どの事業主も積極的な受け入れを表明しており、多忙な中であっても、迷惑そうな顔一つ見せず体験指導に当たっており、PCやビデオ等を使用して、分かりやすい説明もしている。体験現場では、作業服やヘルメット、安全靴等も用意するなど、安全面での配慮もある。

(2) アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている	
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値が達成できている	
<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている	職場体験支援マッチングを実施した少年数や職場体験支援を受けた少年数と職場定着支援マッチングを実施した少年数や職場定着支援を受けた少年数の目標数値に達することができなかったが、これは依頼元からの依頼件数の少なさが主たる要因である。
<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	

4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】	
実際に投入した金額と種類	合計 9,849,571 円 ※2023年4月末 推定値 事業費：9,419,590 円 (内訳 直接事業費：7,848,309 円 / 管理的経費：1,571,281 円) ※上記事業費には、自己資金：614,069 円 を含む 評価関連経費：429,981 円
<p>事業費の多くは、人件費と職場定着支援の助成を予定していたが、人材確保が出来なかったことと、支援の依頼件数が少なかったこともあり、当機構の陣容で効率良く事業を進め、事業成績や質とも妥当であった。</p>	

特に社会課題解決に貢献したアウトカム

【アウトカム】

「少年を支援する協力雇用主が増える」は目標数値を上回る実績を上げることができた。「依頼元との信頼関係が構築される」についても、本事業に推薦した後の感想において概ね好意的内容が得られた。「職場体験事業」については、職場体験支援マッチングを実施した少年数や職場体験支援を受けた少年数は目標数値に達するに至らなかったものの、決められた時間、職場体験に参加できた対象者については、働くことのイメージを広げ就労意欲の喚起につながられた。

【要因】

「少年を支援する協力雇用主の拡充」については、協力雇用主の中から少年の健全育成に理解を示すよう本機構が働きかけたことで、本事業が有意義であると認識してもらえ、達成するに至っている。また、支援対象者の希望する職種の用意がなかった際、機構関係者が敏速に働きかけを行い、本事業に加わってもらった協力雇用主もいる。さらに、横浜市に拠点を置いた本機構の活動であるが、居住地を変えて生活を一新したいというニーズを踏まえ、横浜市以外の地域での開拓も行ったことが、協力雇用主を増やすことにつながっている。このほか、本事業に賛同した協力雇用主等から新たな協力雇用主を機構に推薦してもらえてもいる。機構が直接働きかけずとも新たに紹介されるなどして協力雇用主が増えてきていることから、本事業への理解が少しずつ広まってきているとみなせる。ただし、この事業の展開にあたっては協力雇用主にかなりの負担を強いていることに留意する必要がある。支援対象者が（無断）欠勤をしたり、かなりの気配りをして接していたつもりなのに離職されてしまうということは希ではなく、中には、引き受けた支援対象者の借金を肩代わりするに至った協力雇用主もいた。こうした事態に出会っても協力し続けてもらえるかどうかは、それぞれの協力雇用主側が何を求めてこの事業に参画しているかを機構が十分に把握して、その参画動機に見合ったものを得られていると感じられる工夫を行っていかに関わっていよう。また、どのような負担軽減策がありうるかを検討していくことも望ましく、こうした心配りがさらなる協力雇用主の拡充につながろう。

「依頼元との信頼関係の構築」については、1団体からではあるが、支援対象者が離脱した後、本事業への不満が寄せられた。離脱前に、機構が依頼元に接触を図ったものの実現しないという経緯をたどったが、依頼された時点のみならず、その後の連携の在り方についても十分に積めておく必要があることを指し示すものである。とはいえ、大半の依頼元から満足しているとのフィードバックが得られている。そのことは、凡そ滞りなく連携できていることを意味しよう。なお、その依頼元は、その協力雇用主の雇用形態・待遇の批判も行っていた。依頼元と機構との関係の不調は、両者の問題にとどまらず、協力雇用主側に波及しうるものであることを踏まえて密なる連携に留意することが課題である。このほか、機構は依頼元と協力雇用主が一堂に会する機会を提供したが、それは両者が直接知り合う一助になっている。「職場体験事業」については、依頼された支援対象者や依頼元の希望に沿うべく、希望が出てきた時点で新たな協力雇用主を開拓するなど精力的に行えている。決められた時間、職場体験に参加できた支援対象者のアンケート結果では、職場体験に満足しているとの感想が多く、働くことの具体的なイメージが形成され、その体験先で引き続き就労するに至っている場合もあったことから、適切なマッチングを行っていたと評価できる。この職場体験を契機として働く意欲が喚起されていることが観察されており、一定の成果を認めることができる。なお、支援対象者自身がなかなか乗り気になれず、実際の職場体験参加までに時間を要したものの、機構が様子を伺いながら気長に働きかけた結果、職場体験参加に至り、それを契機として就労するようになった場合もあった。この事業をどの時点で行うのが適切かという問題を提起していると言える。

特に達成が困難であったアウトカム

【アウトカム】

短期アウトカムのうち、「依頼元の機関・団体が増加・拡充する」については依頼機関・団体数を伸ばすことはできたものの、目標値までには達しなかった。「職場定着支援事業」については、職場定着体験支援マッチングを実施した少年数や職場定着支援を受けた少年数が目標数値に達することができず、職場定着支援を途中離脱する者も見受けられた。

【課題】

「依頼元の拡充」については、機構が新たな機関・団体に機構に働きかけても、コロナ禍、通常業務を行うこと自体が危ぶまれ、新たなことに取り組む余力がない期間が長らく続いた中で、なかなか前向きに検討してもらえなかったことが、その一因である。とはいえ、機構が度重ねて熱心に働きかけを行った結果着実に依頼機関・団体数を増やすことはできている。機構が直接訪問した箇所から依頼があっただけでなく、その訪問先経由での回覧物を目にして依頼されるに至った場合もある。機構のホームページ情報のみならず、新聞や機関紙等、機構以外の視点から機構の活動の紹介記事が掲載されるなど、少しずつ認知度が高まると共にその信ぴょう性が増してきている。このような広報活動によって、潜在的ニーズが少しずつ掘り起こされている段階である。今後は、本事業での成功例を蓄積し、それを紹介していく広報を通じて、依頼件数を増やしていく努力が必要であろう。一方で、依頼元には、本事業の利用のしにくさや工夫の余地についての情報収集をしていくことも大切であろう。「職場定着支援事業」において、途中離脱する者が見られたことについては、仕事を続けることの難しさを示唆するものである。しばらくは就労するものの、特段職場で大きなトラブルが発生しているわけでもないのに、協力雇用主等側が働きかけても、次第に後ろ向きになっていった場合もあった。職場体験事業の参加者についても、その後就労先が決まったにもかかわらず就労が長続きしていない場合があり、職場定着支援事業ではそれが浮き彫りにされたということである。とは言うものの、一定期間は就労できたわけで、それを一歩前進できた、と肯定的とらえ方も可能であろう。評価が分かれるところである。

この就労意欲を左右する外的要因として、刑事司法機関関係属中の支援対象者の場合、審判なり刑事司法機関における処遇なりが影響を及ぼしていることがある。在宅処分になりたいとの思いから審判に備えて就労意欲を示してみたり、刑事司法機関からの働きかけが終わった途端に離職してしまう、などである。自身として就労していきたいという認識が十分芽生えているわけではなく、むしろ厳しい処分を恐れて就労しているに過ぎないということであろう。このほか、依頼元、支援対象者の保護者等、支援対象者の周囲の者がその協力雇用主先への就労に対して一致して勧めるという体制が整っていないと、就労意欲がそがれることもある様子である。加えて、遊び仲間との関係の中で遊びを重んじた生活を送りたいという気持ちが増していき、就労への意欲を失ってしまう者もいた。

一方、内的要因としては、就労開始当初は、与えられた仕事を大過なくこなせるかに意識が集中するものの、少しずつ仕事に慣れる中で、これから先もこのような生活がずっと続くということに嫌気がさしてしまうということもあった。機構は定着支援事業開始までだけでなく、開始以降も定期的に支援対象者と接触を図ってはいるものの、就労継続ができなかった支援対象者の場合、このような接触が離職をとどまらせるまでには至っていない。就労意欲が低減するにつれ、機構の担当者に対する心的距離も遠くなり、その接触を親身に相談にのってもらえる機会ととらえるには至っていないということである。

5. 考察

事業全体を振り返っての考察

非就労者の再犯率は就労者のそれよりも高いことから、就労を支援することで少年の犯罪抑止に寄与しようとするのが活動の主旨であり、したがって、中期アウトカムを「横浜市を中心とした神奈川県内在住の非行等の問題行動がある無職少年が減少し、県内の少年犯罪が減少する。」としている。この点に関して、本事業の支援対象者のうち再犯に至った者もいるのは事実である。しかし、今回は3年という短期間の活動であり、その評価を行うのは時期尚早であること、加えて対象群を設けて比較検討しているわけでもないことから、この点についての評価は差し控えることとする。

ただし、就労のイメージを広げるために職場体験の場を提供したり、長期間就労させてもらえる職場定着の場を提供するというだけで、自動的に支援対象者が安定して就労するようになるわけではないということが、この間に活動の結果示されたことになる。再犯に至る非就労者というのも、もちろん就労の機会に恵まれなかった場合もあろうが、一旦は就労したものの離職して犯行当時無職だったということもあろう。つまり、再犯抑止に対しては、就労し続けることへの働きかけが肝要になる。その動機づけなり後押しを機構だけが行っただけでは効果は限定的であろう。依頼元、協力雇用主等関係機関が連携してこそ、効果が表れると思われるが、この継続への働きかけ方についてはさらなる検討が必要であろう。と同時に、支援対象者に対してどの時点で働きかけを行うのが効果的であるかについての検討も求められる。

波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

本機構の事業を本機構で行っているマッチングのノウハウや成功事例の要因分析などと合わせて紹介することで、他の地域でも類似の活動が広まる可能性がある。また、本機構の事業は、依頼元、協力雇用主が参加して初めて実現できるものである。この事業に参加する中で、非行少年等の問題を抱えた少年の健全育成に資することに自らも関与できることを一般人に体験してもらうことは、非行少年の実情への理解を深め、包摂的な社会の実現に寄与することになる。

提言

- ・依頼元が本事業にどのようなことを期待しているか、どうすると推薦したくなるか、などのニーズを把握することが肝要になる。依頼元にとって、単に選択肢が増えるだけのことなのか、それとも従前から行ってきた対応になんらかの不足を感じており本事業がそれを補うのかなどを検討することは支援の役割を明確化することにもなる。
 - ・どのような情報が本事業の展開に役立つかを整理しておく、依頼元からの情報提供がも得やすくなる。依頼元が初めて接触するのであれば、初めからすべての情報を得られると期待するのは難しいので、情報を提供してもよいと思えるような信頼関係を構築していくことが求められる。
 - ・依頼元が、支援を受けることについて対象者にどのように働きかけたかを把握することは、対象者の参加に向けての構えを理解するうえでも肝要になる。対象者が本事業に推薦されたことをどのように受け止めているかを把握しておくことは、対象者の本事業への動機づけを間接的に把握するになる。
 - ・定着支援では、事業所情報で、職種以外の情報（労働条件、勤務形態、職場環境、訓練や資格制度、社員年齢構成他）を提示することが職場定着に向けて適当かを考える際の資料になる。
 - ・職場体験の報告書の支援員や事業所からのコメントは、依頼元からも関心が寄せられている。
- ・本事業が一定の成果を挙げられたこと、依頼元からの要請も多いこと等を踏まえ、助成金終了後も、自己資金で賄える範囲で、本事業を継続実施していくこととし、地方自治体には、本事業への助成、又は青少年の健全育成施策の一つに加えてもらうよう働き掛け続けていく。なお、助成期間中の実績を踏まえ、当面は職場体験支援を行う予定である。

知見・教訓

- ・コロナ禍と緊急事態宣言は、対面事業を主軸とする活動においては事業推進には困難を伴う。
- ・テレワーク活用も進めようとしたが、その当時はその操作に不慣れな事業所が多くて、活用するまでには時間と要していた。
- ・家庭裁判所からは、当初、本事業への積極的な活用申出があったが、組織内部で内規制定に難しさがあったようで、組織としての活用には至っていない。

6. 結論

6-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性			○		
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性			○		
3. 事業実施のプロセス				○	
4. 事業成果の達成度			○		

6-2 事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

- ・職場体験は2日間と短期間であり、参加の負担も小さくなく、興味のある業種の知識を得るのみならず、働く姿を学んだり、職場が自身の居場所になり得る経験につながっている。中学校でも職場体験を実施しているが、期間は5日間であり、しかも多人数での体験であることを思うと、より体験目的が達成できているの推察される。
- ・神奈川県警察本部「少年非行の概要（令和3年）」の資料によれば、非行少年の検挙・補導は1,517人で、前年に比べ271人減少している。少年非行の状況は全国的にみても減少化の傾向をみせており、神奈川県でも同様な傾向にあるが、共犯事件が35.4%を占め、触法少年や特別法犯少年は増、不良行為少年が3万3,157人（583人増）、少年相談件数も1,485件あり、相談内容も非行問題が598件を占めている。つまり、表面的には非行は減少化の傾向を見せてはいるものの、表には出てこない非行の予備軍、非行の芽が依然として多いことは指摘できるところで、こうした芽を摘むには、居場所にもなる職場体験や職場定着の事業が充実・拡大していくことが急務といえる。

7. 資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.33
2	職場体験アンケート（参加少年用） <様式>	p.34
3	同上 <結果まとめ>	p.36～37
4	職場定着支援のループリック <様式>	p.38
5	少年を参加させた依頼元の意見集	p.39～40
6	少年を受け入れた事業所の意見集	p.41～42

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
非行等の問題がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージでき、自分がやりたいのはどうい仕事かわかるようになり、就労決定につながる。	①、職場体験を受けて、「自分がやりたい仕事があった」と感じた少年の割合。 ②、支援を受けた少年のうち、体験後一定期間内(1ヶ月以内)に就労を開始した少年の割合。 ③、②の少年のうち、一定期間(3ヶ月)以上、同一の職場で継続して就労した少年の割合。	なし	①100% ②100% ③100%	2023年1月(目標を分析する期間を2カ月とみる。)
非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の規則正しい生活と仕事を通じての達成感や自己肯定感を得るとともに経済的な課題も解決され、問題行動が無くなる。	①、職場定着支援を受けた無職少年が支援開始前に設定された支援期間(特に定めがない場合6ヶ月)を同一職場で勤続した件数。 ②、職場定着支援対象者の継続就労要因と就労離脱要因について、分析する(全ケース) ③、職場定着支援対象者のうち、その後問題行動が収まった事例と就労継続中も問題行動が続いた事例について、その要因を分析する(全ケース)。	なし	①100%(1年目2件、2年目5件、3年目8件) ②全ケースを分析し、就労継続に必要な(重要)な要素について把握できる。 ③全ケースを分析し、就労と問題行動抑制に相関関係があるのか等把握できる	2023年1月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
(依頼元の拡充) 依頼元の機関・団体が増加・拡充する	依頼元の数が倍増する。	4件(2020年)	2021年中に8機関・団体から参加申込を受理する	2022年3月
(依頼元との信頼関係の構築) 依頼元との信頼関係が構築される	①2件目の依頼が寄せられた依頼元の数 ②支援終了後に、依頼元から「今後も機会があれば依頼をしたい」との回答が得られた件数	①0 ②0	①依頼があった中の5割 ②依頼があった中の8割	2023年1月
(職場体験事業) 非行等の問題がある無職少年が、職場体験支援を受けることにより、働くということが具体的にイメージ出来たり、自分がやりたい仕事は何なのか見えてくることで、働くことの大切さや目的を捉えることができる。	①職場体験支援を受けた少年のうち、「仕事をしたい。」と思えるようになった少年の割合 ②職場体験支援を受けた少年のうち、「体験先の仕事が自分に向いているような気がするので、このまま仕事を続ける。」と言う少年の割合	①0 ②0	①予定数21件のうち 16件 ②予定数21件のうち 14件	2023年1月(目標を分析する期間を2カ月とみる。)
(職場定着事業) 非行等の問題行動がある無職少年が、職場定着支援を受けることにより、仕事中心の生活を送るようになり、仕事を通じて達成感や自己肯定感を得たり、周囲に相談できる人や尊敬できる人がいる。	①支援期間中(特に定めがない場合は6か月)も就労が続いたり、この間に転職しても転職先での就労が続いている少年の割合 ②仕事の成果が認められたり、自分の成長を感じることが出来るようになった少年の割合 ③仕事を通じて、相談できる人や尊敬できる人を複数名挙げる事が出来る少年の割合	①0 ②0 ③0	①予定数20件のうち 12件 ②予定数20件のうち 12件 ③予定数20件のうち 12件	2023年1月
(協力雇用主の拡充) 少年を支援する協力雇用主が増える	本事業への協力を示す協力雇用主の数が増える	25社	40社	2023年3月

職場体験アンケート（様式1）

（注）令和2年10月～令和3年5月の間使用

1 職場体験を始める前に（記入日：令和 年 月 日）

職場体験先の会社名
職場体験先として選んだ理由は？
職場体験で学ぶこと・経験したいことは何ですか（○をつけてください。複数回答可） ① 仕事の喜びや厳しさを実感する ② 仕事の知識や技能を学ぶ ③ 新しい自分を発見する ④ 将来や進路について考える ⑤ 社会人としてのマナーを学ぶ ⑥ 働いている人の話を聞く ⑦ （自由記載）

2 職場体験をふりかえって（記入日：令和 年 月 日）

職場体験先で、うれしかったこと・自信がついたことは何ですか？		
職場体験先で、むずかしかったこと、うまくいかなかったことは何ですか？		
働いている人を見て、どんなことを感じましたか？		
社長さんや社員の皆さんと、どんな話をされましたか？		
このまま職場体験先で働いてみますか（○をつけてください）	はい	いいえ
このほかにも体験したい仕事がありますか？	はい	いいえ

3 職場体験先からのメッセージ（記入日：令和 年 月 日）

--

職場体験アンケート（様式2）

（注）令和3年7月～令和5年2月の間使用

（令和 年 月 日）

職場体験先の会社名																		
この事業所を職場体験先として選んだ理由は？																		
【職場体験の振り返り】 1 職場体験を振り返り、各項目について該当する数字に○印をつけてください。 （4/できた 3/まあ、できたと思う 2/できなかった 1/分からない）																		
<table border="1"> <tr> <td>1. 体験先では、あいさつをしっかりとすることができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>2. 体験先では、社員の皆さんと、お話ができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>3. 仕事の大変さや厳しさを感じることはできましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>4. 仕事の喜びや楽しさを感じることはできましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>5. 仕事には勉強も必要と感じることができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>6. 実際のな知識や技術を学ぶことができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>7. 働くことの大切さを感じることはできましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>8. 将来について考えることができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> <tr> <td>9. 自分自身の意外な一面を知ることができましたか？</td> <td>4 ・ 3 ・ 2 ・ 1</td> </tr> </table>	1. 体験先では、あいさつをしっかりとすることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	2. 体験先では、社員の皆さんと、お話ができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	3. 仕事の大変さや厳しさを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	4. 仕事の喜びや楽しさを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	5. 仕事には勉強も必要と感じることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	6. 実際のな知識や技術を学ぶことができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	7. 働くことの大切さを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	8. 将来について考えることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	9. 自分自身の意外な一面を知ることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
1. 体験先では、あいさつをしっかりとすることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
2. 体験先では、社員の皆さんと、お話ができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
3. 仕事の大変さや厳しさを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
4. 仕事の喜びや楽しさを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
5. 仕事には勉強も必要と感じることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
6. 実際のな知識や技術を学ぶことができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
7. 働くことの大切さを感じることはできましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
8. 将来について考えることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
9. 自分自身の意外な一面を知ることができましたか？	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1																	
2 職場体験をして「良かったこと」「うれしかったこと」「大変だったこと」「自信がついたこと」は、どんなことですか。																		

※ 職場体験先からのコメント

--

職場体験アンケートの集計（様式1）

（注）このアンケートは、支援対象者に対し、体験開始前と体験後の振り返りを求めたもの。（ ）内は体験先の職種

1 職場体験先として選んだ理由は

- （内装）仕事の内容を知るため
- （溶接）溶接の現場を間近で見たり、知識や道具の名前に興味がある
- （クリーニング）身近にあるものの良く知らないこと、また、服がある限り需要がなくなるしない仕事なので興味がある
- （電気）持っている資格を活かそうと思って
- （建設）地元から近いし、新しいことを始めてみたかったので
- （農業）ママに勧められて
- （大工）自分がやりたいことと一致した

2 職場体験で学ぶこと・経験したいことは何ですか（複数回答も可）

仕事の喜びや厳しさを実感する	3	仕事の知識や技能を学ぶ	6
新しい自分を発見する	3	将来や進路について考える	4
社会人としてのマナーを学ぶ	3	働いている人の話を聞く	3

3 職場体験先で、うれしかったこと・自信がついたことは何ですか？

- （内装）職場の雰囲気やパテの塗り方、内装業の仕事の知識など身に付いたこと
- （溶接）溶接の仕事を経験させていただき、溶接は奥が深い職種なんだなと思ったこと
- （クリーニング）仕事の内容や資格試験についての話など、今まで知らなかったことの話の色々教えてもらえたこと
- （電気）知らない話を聞くことができ、知見を広げることが出来たこと。電気工事に現場を観察する機会も得られたこと
- （土木）挨拶がしっかり出来ていると言われたこと
- （農業）単純作業で分かり易く教えてもらえ、時間が経つのがすごく早く感じたこと。温かい空気で居心地が良かったこと
- （大工）優しい先輩がいること

4 職場体験先で、むずかしかったこと、うまくいかなかったことは何ですか？

- （内装）パテを埋めるのがとても難しかった
- （溶接）溶接が難しかったが、どこを工夫したらよいのか等を知ることが出来た
- （クリーニング）普段は自分で洗濯をしないため、洗濯物を干す作業で手際が悪かった
- （電気）力と体力が必要とされる仕事。自分には難しいかもしれない。
- （土木）セメントと土と水を混ぜるとき、見た目以上に力が必要で難しかった
- （農業）サニーレタスの苗を植えるとき、もう少しスピーディに出来たら良かった
- （大工）CADの操作

5 働いている人を見て、どんなことを感じましたか？

- （内装）とても丁寧に仕事をされていた。自分も遣り甲斐のある仕事を探してみたいです。
- （溶接）遣り甲斐のある仕事だと感じた。
- （クリーニング）仕事を手際良く進めている姿を見て、格好が良かったが、自分に出来るのか分からない。
- （電気）元々細かった人も、仕事を続けていくなかで力や体力が付いている。働き続けていくことの大切を感じた。
- （土木）土木は荒いイメージがあるが、本当に細かな所までこだわり丁寧な仕事をしている。感動した。
- （農業）兎に角優しい方ばかりだった。こんな空気間が大好き。
- （大工）仕事とプライベートを、しっかり分けていること

6 社長さんや社員の皆さんと、どんな話をされましたか？

- （内装）内装業の知識や経験談、パテの埋め方なども丁寧に指導していただいた。住まいの話やプライベートの話もした。
- （溶接）実践があるのみと教えていただき、全くその通りだと感じた。
- （クリーニング）汚れの落ちる仕組みや資格試験のこと。不況に強い仕事であること。夏場はとても暑い職場であること。
- （電気）仕事の流れ、作業の意味、発電所・変電所廻りの仕事や工作中的危険について
- （土木）作業のコツ等を教えてもらった。
- （農業）捕まった事件のこと。地元の祭りのこと
- （大工）会社内のこと。少年院のこと

7 このまま職場体験先で働いてみますか

はい	4	いいえ	0	無回答	3
----	---	-----	---	-----	---

8 このほかにも体験したい仕事がありますか

はい	2	いいえ	4	無回答	1
----	---	-----	---	-----	---

職場体験アンケートの集計（様式2）

（注）このアンケートは、支援対象者に対し、体験の初日と2日目に、それぞれ実施するもの。設問には、該当数字（4/できた。 3/まあ、できたと思う。 2/できなかった。 1/わからない。）で回答を得ます。

設問 少年	A		B		C		D		E		F		G		H	
	初日	2日	初日	2日	初日	2日	初日	2日	初日	2日	初日	2日	初日	2日	初日	2日
1. 体験先では、あいさつをしっかりとすることができましたか	1	4	4	3	4	4	4	4	3	3	4	4	3	3	3	3
2. 体験先では、社員の皆さんとお話できましたか	3	3	4	3	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	3
3. 仕事の大変さや厳しさを感じる事ができましたか	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	1	4	4	3	4	4
4. 仕事の喜びや楽しさを感じる事ができましたか	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4
5. 仕事には勉強も必要と感じることができましたか	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4
6. 実的な知識や技術を学ぶことができましたか	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	1	3	4	3	3	4
7. 働くことの大切さを感じる事ができましたか	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	3	3	4	4
8. 将来について考えることができましたか	4	4	1	2	3	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4
9. 自分自身の意外な一面を知ることができましたか	2	1	3	1	3	4	1	4	1	1	1	1	3	1	3	3

職場定着支援のルーブリック

記入日 : 支援開始のとき ・ 支援終了のとき		整理番号 :			
関連するアウトカム	到達目標 (着眼点)	評価基準			
		A : 満足できる	B : 概ね満足できる	C : 努力を要する	
職場定着事業	仕事中心の生活を送る	遅刻や欠勤をしない	直近3か月間は遅刻や欠勤がない	月1回程度、遅刻や欠勤がある	毎週1回程度、遅刻や欠勤がある
		遅刻や欠勤のときは連絡を入れる	必ず連絡を入れている	同僚に連絡を頼むことがある	会社から連絡を受けることがある
		仕事に差し障りがある夜遊び・外泊をしない	夜10時前には帰宅している	月1回は、夜遊び・外泊がある	週1回は夜遊び・外泊がある
	達成感や自己肯定感を得ていく	失敗やミスを繰り返さない	失敗やミスを備忘録に書き留めている	失敗やミスをしないよう気を付けている	失敗やミスを誤魔化したり言い訳する
		仕事に対する姿勢が積極的と言われる	分からない点は自分でも調べ確認する	分からない点は上司や先輩に聞く	上司や先輩の話を聞き洩らすことがある
		必要な資格を得たり講習会にも参加する	資格や講習修了証を取得できた	資格取得に向け勉強している	会社指示の講習会には参加する
		仕事にやりがいを感じている	顧客や同業者から褒められことがある	上司や先輩に褒められことがある	仕事に今一つ気乗りがしない
		仕事に達成感を得る	達成目標のいくつかはクリアーした	達成目標の一つはクリアーした	達成目標になかなか届かない
		仕事が社会に役立っていると感じてる	関係機関や団体からの表彰を受けた	役立っていると感じることがある	役立っているのかよく分からない
	相談や尊敬できる人がいる	相談できる上司や先輩がいる	相談できる上司や先輩が複数いる	相談できる人は一人はいる	誰に相談すれば良いのか分からない
	補完的な指標 (社会人としてのマナー)	きちんと挨拶ができる	誰にでも挨拶が出来る	自分の方から挨拶していく	挨拶されれば、挨拶を交わす
		約束の時間は守る	時間には余裕をもって対応する	時間に遅れるときは必ず連絡を入れる	時間を守れないことが時々ある

少年を参加させた依頼元の意見集

(実施期間中に2回意見交換会を実施したときの意見等)

Q1 体験事業に期待するところ (複数回答)					
勤労観・職業観の育成	11	基本的なマナーの取得	2	新たな自分の発見	5
仕事上の知識や技術の向上	3				

- ・引きこもりで外に出ることもままならなかったため、まずは基本的な社会のルールや働くことの意義などを感じてくれたらと思う (保護観察所)
- ・細かく少年の様子などを報告いただき、とても参考になった (児童施設)
- ・仕事を体験することにより更生に結びつけ、きちんとした生活を送れるようになる契機になればと思う (警察)
- ・体験日数は2日間が適当だが、その先の道筋が欲しい。体験を終えたあと次に繋げるものがあると良い(福祉事務所)
- ・体験日数はケースによって変えて欲しい。例えば3日とか、週3日を1か月実施するとか。ケースによっては、体験からそのまま就労に繋がるような働き掛けをしたいので、話し合いの中で期間を決められれば有難い (自立援助ホーム)
- ・中学卒業後、いきなり社会での自立を迫られるなか、会社を知る機会を得たり、善意ある大人との対面はとても貴重な経験になる (自立援助ホーム)
- ・就労が非行少年の更生に有効であることを実践によって示し、草の根を広げて欲しい (弁護士)
- ・社会内で立ち直るチャンスが出来る限り増えるよう、協力雇用主とのマッチングに期待する (弁護士)
- ・女子が活用できる職場が増えると良い (保護観察所)
- ・社会の大人の背中を見せていただける場にして欲しい (自立援助ホーム)
- ・今後も審判前の段階で、少年の就労先確保に尽力して欲しい (弁護士)

Q2 体験を受けたあとの少年の変化 (複数回答)					
変わらない	1	体験先の仕事が自分に向いている気がする	4	体験先の話をよくする	5
体験先で働いている	7	仕事の興味や関心が高まった	10	体験先と同じ職種で働いている	0
仕事をしたいと思うようになった	9	体験先とは違う職種で働いている	2		

- ・無気力に生活していた少年が、毎日通勤し、決められた仕事をこなしていくことは良い経験になっている (保護観察所)
- ・体験後、保育所へボランティアとして3か月活動したあと保育関係の大学へ進学した (児童施設)
- ・顔つきが変わってきた。問題行動を起こさず就労できるのではないかと期待する(警察)
- ・体験のときの話が良く出てくる。初めての体験だったが、仕事をする自信には繋がっている (福祉事務所)
- ・これまで一日も働けなかったことを思うと、本人が体験を2日間実施できたことは、私からすると奇跡的なこと (自立援助ホーム)
- ・就労についての具体的なイメージが持てない少年には、職場体験というワンステップは非常に有用 (弁護士)
- ・目標が具体的になり、自分にとって今必要なことは何かを知れる機会となった (自立援助ホーム)
- ・ひきこもりだったが、体験前に美容院へ行き服も購入した。家族も驚いている (保護観察所)
- ・ひきこもりだったが、現在はアルバイトを始めている (弁護士)
- ・明るい表情をするようになり、会話も少し多くなった (弁護士)

その他

- ・弁護士には守秘義務があるため、事件のことや家族のことを、どこまで事業所に伝えられるか、とても悩むところ。
- ・支援を受ける前に、その目的や目標をしっかり持たせたい。
- ・児童施設には、社会との繋がりがもてない少年が目立つ。
- ・若者の健全育成にとって大変有意義な事業。引き続き永く事業が継続されることを望む。
- ・社会内での立ち直りの機会を得られる少年が増えることは素晴らしいこと。
- ・少年の就労先の確保に動けることは本当に心強い。少年も就労先への道筋が見えてくると、更生への意欲が高まるように感じられる。

少年を受け入れた事業所の意見集

(実施期間中に2回意見交換会を実施したときの意見等)

Q1 体験を受入するに当たり配慮や工夫したところ (複数回答)					
実施日時の調整	11	社員の協力を得ている	13	分かりやすい言葉での説明	12
作業服等を貸与した	9				

- ・ 少年等は年齢が近いと比較したがるところがあるので、同世代がいない現場に配置した (土木)
- ・ 仕事というものがどんなものなのか分かってくれればと思ひ対応した (製造)
- ・ 不安な気持ちをもって体験に取り組むと思うので、安心して体験が出来るよう日程の調整と職員の協力も得た (保育園)
- ・ 一つひとつの説明を、ゆっくりと、伝わりやすい言葉を選んだり、実践している姿を見せながら説明するなど工夫した (保育園)
- ・ 仕事の内容が分かる現場の選定と現場での安全対策には配慮した (建設)
- ・ 体験の日時や期間は、繁忙期ではない限り、依頼元の要望に応じた (農業)
- ・ 午前中が結構忙しく、午後になると体験者に心配りが出来るが、体験者にしてみれば仕事を体験することに繋がらないかも (洋菓子店)
- ・ 高所は苦手と事前に知らされていたので、高所作業では留意しながら体験させた (建設)
- ・ 特別扱いすることなく、通常の作業を行う中で体験させた (建設)
- ・ 見学だけでなく実際に作業してもらい、質疑応答にも時間を割いた (建設)
- ・ 働くことの喜び厳しさ、チームワークの大切さなど勤労観を養うよう心掛けた (クリーニング店)
- ・ 体験中には疲れた表情も見せるので休憩時間を多くした。体力的なものや、仕事への取組姿勢には問題が残る少年 (建設)

Q2 体験を受ける少年の必要な情報は何か (複数回答)					
非行歴・問題行動の有無	8	少年の成育歴・家庭環境	10	体験を受ける目的や心構え	9

- ・どんな少年なのか情報が多い方が良い。非行があれば内容がわかると良い (土木)
- ・少年がどのような気持ちで日々を過ごしているのか等、少年の立場で物事を考えることが出来るので、情報は一番重要 (保育園)
- ・本人の本心が知りたかったので、体験前に雑談し、少しでも本人と打ち解けるようにした (建設)
- ・体験を受けたいとする気持ち、ヤル気があれば、どんな少年でも受け入れる (農業)
- ・少年が暴れたり、エスケープされると困る。体験者にはコミュニケーションが採れる人が良い (洋菓子店)
- ・少年の情報は特に必要ない。先入観を持たずに話をしたい (建設)
- ・裁判官や調査官の見解や意見があると採用の参考になる (建設)
- ・仕事に対する将来の希望や、今後の人生をどのように考えているのか知りたい(建設)
- ・コロナ感染防止のため、ワクチン接種やPCR検査の有無を確認したい (農業)

Q3 体験を受入れたことで、得られたものがありますか (複数回答)					
事業内容や業界の広報に繋がった	1	少年の育成に関わられたこと	9	少年の考え方等が社員教育の一助になった	5

- ・現場の年配者からは、少年を励ますような言葉が掛けられていた (土木)
- ・体験を指導する社員を配置したが、2名の社員は、しかり指導してくれた (製造)
- ・体験を受け入れたことで、保育業界を知ってもらえたことが良かった (保育園)
- ・クリーニング業界を知ってもらう機会にもなった。また少年は事前に業界の勉強してきたようで、それには感心した (クリーニング)
- ・一人でも農家のことを知ってもらうことは、事業主としても有意義なこと (農業)
- ・体験を機に、仕事というものを考え、自分がしたい仕事に取り組んでくれればと思う (建設)